未来基金の概要

大阪大学は、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献する大学となることを志し、多様な知の協奏と共創によって、学問の真髄を極める高いレベルの教育研究を追求しています。また、新たな学問領域の創成、専門分野を超えた知の統合学修を通じて、地球規模の社会問題を解決し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出します。

大阪大学未来基金は、これらの活動を支える基盤として、学生の活動や教育研究、国際交流、社会連携等、幅広い支援活動に活用させていただきます。

大阪大学 未来基金

（未来社会に向けて）

未来社会の「ゆめ」を実現させるため大阪大学を応援していただく基金で、この基金の運用益を元に、未来を支える学生支援、教育研究支援、国際交流支援、社会連携支援等の事業に活用させていただきます。

特定基金
（特定の目的に向けて）

使途を特定したプロジェクトをご支援いただくために募集をしているものです。

- 全学プロジェクト
- 修学支援・研究者等支援のプロジェクト
- 学部・研究科等のプロジェクト
- 課外活動等のプロジェクト
- 冠プロジェクト

ご寄付の方法

大阪大学未来基金へのご寄付につきましては、さまざまな方法をご用意しております。ホームページからご寄付のお申込みや払込取扱票の請求が可能です。

個人

クレジットカード・ATM・ネットバンキング

クレジットカードはホームページで手続きが可能です。
ATM・ネットバンキングはお知らせする指定口座にお振込みください。

金融機関窓口払込

お送りする払込取扱票にて窓口でお振込みください。

定期的なご寄付

ホームページから定期的なご寄付の手続きができます。

コンビニ払込

ホームページからの手続き後、ご連絡する番号をコンビニ端末で入力いただくか、お送りする払込取扱票にてコンビニでお振込みください。

リユースによるご寄付

ご不要の本、金券、ブランド品、貴金属等のご寄付によって、阪大生の「未来」を支援する取組です。ホームページからお申込みください。

クラウドファンディング

大阪大学のプロジェクトに対して支援者が寄付する仕組みです。
ホームページからお申込みください。

法人

ホームページから本学所定の寄付申込書をダウンロードし、ご記入のうえ、メールもしくは郵送にて未来基金事務局までお送りください。申込内容を確認後、本学から振込手続きのご依頼を送付させていただきますので、記載の指定口座へのお振込みをお願いいたします。入金確認後、寄付金領収書とお礼状を郵送させていただきます。

大阪大学 未来基金

大阪大学 未来基金事務局
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-8
TEL：06-6879-8327
E-mail：kikin@office.osaka-u.ac.jp

大阪大学未来基金ホームページ
https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp
大阪大学未来基金 検索

発行：2024年8月

大阪大学未来基金

活動報告書 2024

大阪大学を応援いただいている皆さまへ
大阪大学未来基金状況のご報告

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY
OU MASTER PLAN 2027 生きがいを育む社会の創造

総長ご挨拶

社会を創造する大学

～社会との共創を通して「生きがいを育む社会」の創造を目指します～

大阪大学総長　西尾章治郎

大阪大学未来基金を通じて、多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

大阪大学は、かねて大阪の地に根づいていた懐徳堂・適塾以来の市民精神を受け継ぎ、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとして、それぞれの時代の社会課題に応えてまいりました。

カーボンニュートラルやSDGsの実現による持続可能な社会を目指した変革が進む中、大学に対する人材育成やイノベーション創出への期待は一層高まっています。そのような中、大阪大学では、単に「社会に貢献する」ということに止まらず、一歩踏み込み、社会との共創を通して、地域から世界全体に及ぶさまざまな課題を解決し、「生きがいを育む社会」を創造する大学となることを目標に掲げています。（P.3参照）

自らが理想として掲げた「生きがいを育む社会」の創造を目指し、大阪大学はこれからも、50年後、100年後、そしてさらにその先の未来を見据え、長年の伝統の中で培ってきた知の集積、育成してきた人的リソースを最大限に活かし、新しい時代と社会の要請に応えるべく教育・研究を一層充実させてまいります。

大阪大学未来基金のご支援のもとで実現した数々の活動の中から、今回は「学部学生による自主研究奨励事業」についてご紹介いたします。2015年度から実施しております本事業は、総合大学の強みを生かし、幅広い特色・分野において学部の垣根を超えて、研究室等に配属される前の学部学生が自主研究を行うものです。2023年度には、全学で54の研究が採択され、約半年間にわたる研究活動が行われました。本事業においては、学部学生の段階で国際ジャーナルに論文採択される学生が現れるなどの研究成果はさることながら、研究の過程で得た経験、それによって培われる知識、問題解決に向けての試行錯誤の積み重ねこそが、何よりも重要な学びであると考えています。成果発表会では、さまざまな学びの経験を積んだ学生たちが、達成感と自信に溢れた表情で堂々と研究成果を発表し、質疑応答にとても頼もしく対応する姿に大層感銘を受けました。本学学生にとって極めて貴重な学びの機会となっている本事業を、皆さまからのご支援により実施できますことは、感謝の念に堪えません。

大阪大学未来基金は、2009年の設置以来、多くの皆さまからの温かいご支援により、順調にその規模を拡大してまいりました。本学の学生、教員、研究者が未来社会の「ゆめ」の実現に向けた「ゆめ基金」を始め、世界に羽ばたくための多様な教育研究事業に活用いたしております。

卒業生・保護者や地域の皆さまを始め、企業・団体等の皆さまには、引き続き大阪大学未来基金に温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目次

P2	総長ご挨拶
P3-4	生きがいを育む社会の創造
P5	ゆめ基金
P6-7	ゆめ基金の活用
P8-11	特定基金の活用
P12	クラウドファンディング
P13	人生の集大成としての「遺贈」
P14	未来基金の状況
P14-15	顕彰
P15	紺綬褒章

OUマスタープラン2027 ー生きがいを育む社会を創造する大学へー
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/strategy/ou_masterplan2027

生きがいを育む社会の創造

個々人が社会で活躍できる寿命（社会寿命）を延伸させ、あらゆる世代がその多様性を生かすことで社会を支え、豊かで幸福な人生をすべての人が享受できる社会を創造する「真のオピニオンリーダー」になる。

大阪大学の決意

大阪大学は、中長期的な経営ビジョンであるOUマスタープランに掲げる「生きがいを育む社会」の創造に向けて、アジアから世界に向けて社会変革を先導する、新たな大学像を探求しています。

私たちが目指す未来社会とは、個々人が幸福で心身ともに満ち足りた状態にあるだけでなく、何らかの社会参画を果たしつつ生きがいを育むことにより、社会寿命が延伸される社会です。その実現のためには、大学こそがリーダーとしての役割を担うことが期待されており、私たちは、新しい価値と進化した知を創造するとともに、卓越した人材の輩出をより一層推し進め、社会変革にこれまで以上に積極的に挑戦する決意を新たにしました。

社会とともに創る世界の未来

本学は、かねて大阪の地に根づいていた懐徳堂、適塾の市民精神を受け継ぎつつ、大阪の政財界や市民の熱意ある活動の末に1931年に帝国大学として創設されました。民間の強い意志と資金により創設された大学として、創立当初から、本学には社会と連携して活動するという精神が息づいています。「社会の中の大学、社会のための大学」として、教育研究を通した社会への貢献を使命とし、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに社会とともに歴史を積み重ねてきました。

このような地域の熱意に支えられた大学だからこそ、私たちは大学が社会とともに成長し、課題解決に果敢に挑むことの重要性を何よりも強く認識しています。社会から隔絶された孤高な存在ではなく、社会との共創（Co-creation）を通じて、そのニーズに対応した持続的な社会変革を起こし、世界の未来を創ることが本学の使命だと信じています。

社会変革を先導する大学へ

深刻な社会課題の解決に向けては、世界中から優秀な研究者を呼び込み、社会変革の実現に必要な知と人材とテクノロジーを結集することが不可欠です。本学は、総合大学としての多種多様な専門分野を縦横無尽に組み合わせ、現実の社会課題に対して実践的な解決策を見つけ出すとともに、社会との共創を通じて研究成果の社会実装を推進し、新産業の創出など、社会にインパクトを与える革新的な成果を生み出してまいります。

また、関西を中心とした地域との協力関係を強化し、地域社会の発展に貢献するとともに、国際的な展望のもと、感染症の克服や持続可能な社会の構築など世界の諸課題にも取り組んでまいります。世界中から優秀な留学生を呼び込み、グローバルな環境での学びや交流を実現することで、学生に多様な文化や背景を理解する機会を提供し、さまざまなコミュニティを巻き込みながら社会変革を先導する人材を育成、輩出してまいります。

これからも皆さまとともに

本学は、「いのち」と「くらし」を守るための強靭で持続可能な未来社会の実現に向けて、これからも自己革新に努め、進化し続けます。そして新たな大学のモデルとして、常に変化し続ける社会の中でリーダーシップを発揮し、ステークホルダーの皆さまとともに創り出す「新価値」と「進化知」を社会の変革へと繋げ、理想とする未来社会を創造してまいります。皆さまからより一層のご理解とご支援を賜ることができるよう尽力してまいりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

生きがいを育む社会の創造

個々人が社会で活躍できる寿命（社会寿命）を延伸させ、あらゆる世代がその多様性を生かすことで社会を支え、豊かで幸福な人生をすべての人が享受できる社会を創造する「真のオピニオンリーダー」になる。

多様性の尊重と豊かな時間により、自由な発想と高い知性を育む

教育基盤	研究基盤	経営基盤
知性あふれる人材の育成環境	**自由な発想が芽吹く環境**	**共創を中核に据えた経営**
未来社会のあり方を創造し、社会変革を導く人材の育成	新たな社会の創造に資する基礎研究の推進と新たな価値の実装化への先導	共創活動のレベルアップと教育・研究・業務システム改革による経営基盤の充実

- コロナ新時代に対応する情報基盤整備
- 多様な人材が輝くグローバル戦略とDiversity & Inclusionの深化
- 自由な発想が芽吹く豊かな時間の創出
- 社会との共創を醸成し、活性化させるブランディングの展開

OUマスタープラン

大学の活動の中心である「教育」「研究」「経営」をはじめ、すべての活動に繋がる中長期的な経営ビジョンです。

本学はこのOUマスタープランを道標に、多様なステークホルダーの皆さまとの共創により、地域から世界に及ぶさまざまな課題に果敢に挑戦し、解決を図ることで、「生きがいを育む社会」を実現してまいります。

OUエコシステム

OUマスタープランを実行するための基盤となる仕組みです。本学では、自由な発想による研究の蓄積、人材育成を数多く行っており、その卓抜した教育研究成果を社会で実装あるいは実践しています。その過程で明らかになった課題は再び大学に還元し、教育研究を発展させて、「知」「人材」「資金」の好循環を生み出しています。

「ゆめ」の文字は、ゆめ基金事業の支援を受け自主研究を実現できた学生に書いていただきました。
「ゆめ」が実現できる学生の輪がさらに広がるようにとの思いを込めてデザインされています。

～ ゆめ基金、それは未来の社会の「ゆめ」を応援する仕組みです ～

さまざまな夢が世の中にはあります。夢の実現には、ともすれば地域から世界全体にまで及ぶさまざまな課題の解決が必要かもしれません。大阪大学は「多様性の尊重と豊かな時間により、自由な発想と高い知性を育む」という理念のもと、社会との共創を通して、「生きがいを育む社会」に向けた「夢」に末永く寄り添い続けます。

本学は創立以来、10数万人に及ぶ卒業生と世界最先端の学術研究の成果を社会に還元してまいりました。多くの卒業生が、企業・官公庁・教育研究機関・医療機関などさまざまな分野の第一線で、そして世界中のいたるところで活躍しています。また、本学の研究成果は、社会や企業の課題解決に繋がるイノベーティブな製品・サービス、健康長寿社会を実現する医薬品開発などに活かされてきました。

「ゆめ基金」は、本学の伝統を受け継ぎ、未来社会への貢献を継続するため、海外への留学・インターンシップ、学部生の意欲的な自主研究、若手研究者の学会発表、課外活動の表彰、さらに激甚災害で保護者の方が被災され経済的に支援が必要な際の本学の学部生・大学院生への特別奨学金給付などに活用させていただいております。

お一人おひとりのご支援が、長い年月にわたり繋がることで、支えられる活動はさらに大きくなり、これら全てのご支援を通じて、本学の卒業生や研究成果による未来の社会の「ゆめ」への貢献に繋げる、それが「ゆめ基金」です。卒業生を始め、広く地域の方々や企業・団体等の皆さまに、「ゆめ基金」へのご支援をお願いいたします。

応援の声

大阪大学
長谷川 晃 名誉教授

私は阪大入学時に、ディキシーランドジャズバンドを立ち上げ、好きだったトロンボーンの購入に奨学金を当てたのを記憶している。卒業後、米国のフルブライト留学生に選ばれ、カリフォルニア大学で学位をとった。特にカリフォルニア大学での講義はその後の人生の支えになった。大阪大学の教授時代には電気力学の講義で最小作用の法則を使ってマックスウエルの方程式を導出するなど、物理学の基礎と電磁気学のつながりを重視した講義をすることで、工学部の講義がややもするとテクノロジー優先となることを防ぎ、将来のノーベル賞受賞者の誕生につながる努力をしてきた。大阪大学の学生や研究者には「ゆめ」を追いかけて欲しい。

ゆめ基金の活用

他にも多くの感謝のメッセージが届いています。是非ご覧ください！
https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/express_gratitude/

自主研究奨励事業

微生物の医薬品代謝試験への応用
～リドカインのヒト代謝を再現する～

堀 翔　薬学部薬学科3年

この度は大阪大学未来基金にご寄付いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

私は麻酔薬としてよく使用されているリドカインのヒトにおける代謝物を生産する食品由来微生物を探索し、大量培養を行うことで、代謝物を精製、構造を決定しました。本研究は、食品由来微生物がヒト試料の倫理的・コスト的課題を克服した医薬品代謝物を調製するツールとして利用できることを示すユニークな研究として、日本薬学会ではポスター発表において学生優秀賞を受賞し、また本研究の論文がChemical and Pharmaceutical Bulletinにアクセプトされ、Featured Articleにも選出されました。

本事業を通して、学部1, 2年生の時点で研究の発案から成果発表までを経験することができ、研究に必要な知的好奇心、洞察力、忍耐力といった能力を高めることもできました。これらは通常の大学生活では得ることのできない経験や能力であり、大変有意義な2年間を過ごすことができました。今後は本事業で得た経験や能力を活かして博士課程まで見据えた薬学研究を行い、研究成果を通して社会に還元していきたいと考えています。この度はご支援賜り誠にありがとうございました。

繊維状物質がダスト凝集に与える影響
～部屋の埃から微惑星形成まで～

岩野 志織　理学部物理学科4年

私は学部1年からの3年間、ソフトマター地球惑星科学グループの桂木先生の下で「繊維状物質がダスト凝集に与える影響～部屋の埃から微惑星形成まで～」というテーマで研究を行いました。

本研究ではダスト（糸が絡まった凝集体）の衝突を高速度カメラで撮影することに成功し、実験的に未知であったダストの基礎物性の解明に取り組みました。未来基金からのご支援は、ダストの構成材料となる特殊な糸や、衝突実験を行う装置の購入に活用させていただきました。研究成果は物理学会や日本地球惑星科学連合大会で発表し、現在は論文の執筆を進めています。学部の段階で自ら設計した実験や解析、学会での議論を行うことができたことは、自身の興味や将来の方向性に大きな影響を与えました。

今後もこの研究をスタート地点として、惑星科学におけるダストの研究を続けたいと考えております。自主研究奨励事業を通じて、入学当初の漠然とした興味を研究の場に移すことができ、3年間でさまざまな経験や人との繋がりを得ることができました。改めまして、皆さまのご支援に心より御礼申し上げます。

複数の意味を表す畳語・接辞／前置詞について
―日本語とインドネシア語との比較―

Kurniawan Santosa　外国語学部日本語専攻4年

この度、自主研究奨励事業の支援としてご寄付くださいました皆さまに感謝申し上げます。ご指導をなさってくださいました鴻野知暁先生にも感謝申し上げます。

今回の研究では私は日本語やインドネシア語によく使われる「畳語」について考察を行い、複数を表す「たち」や「para」との比較をしました。インドネシア語の畳語や「para」に関する文献を調べるという目的でインドネシアの図書館（国立図書館、大学附属図書館など）に足を運びました。さまざまな文献を閲覧した結果、インドネシアにおける言語の研究、特に畳語や「para」に関する研究の現状を概ね把握することができました。インドネシアは母国でありながらも、私が研究を行ったところは地元から離れていますので、色々大変なことが起こりましたが、非常に貴重な経験を得ることができました。

本研究では、日本語の畳語とインドネシア語の畳語、そして「たち」と「para」は対応している場合もあれば、そうではない場合もあるということを発見しました。本研究の成果を用いれば日本語母語話者とインドネシア語母語話者の間の相互理解が（わずかでも）より深まるのではないかと思われます。

私は今後も、日本語の研究及びインドネシア語との対照研究を続けようと思っております。

ボードゲームを通した大学生活の類似体験
～教材としての価値の探求～

青木 海　文学部2年

皆さま初めまして。私たちは今回大学生活を疑似体験できるボードゲーム「DAIGAKU」の開発、教材的価値の探究に取り組ませていただきました。

今回の研究では、ルール・デザインの改良や専門家へのインタビュー、試遊会の開催等を行いました。研究活動を通して、このDAIGAKUはボードゲームとして一般的な娯楽要素・面白さを持っているのみならず、主に進学を考えている高校生や新たに大学生となる方々にとって、進路教育等の一環として大学生のリアルな生活を知ることができる媒体となりました。

さらに、我々はクラウドファンディングに挑戦し、現在も製品化に向けて活動しております。ここまで本研究を発展させられたのは、大阪大学未来基金によるご支援のおかげです。心より御礼申し上げます。

学生課外活動等支援事業

体育会体操部　主将 髙見 仁人

この度は高額物品援助事業において、段違い平行棒の購入にご支援いただきありがとうございました。

以前までは、旧規格のものを使用しておりました。高難度な技を行うには頼りなく、練習にためらいが生まれており早急な買い替えが必要でした。

今回のご支援で購入させていただいたものは新規格のものであり、公式戦と同じ環境での練習も可能となりました。近年女子部員が増加しており、技のレベルも高難度化しております。今回のご支援によって、今まで以上に競技レベルが向上しております。

体操部では、夏の七大戦での優勝を目指し、日々厳しい練習を積み重ねております。応援のほど、どうぞよろしくお願いします。

文化会阪大ピアノの会　代表 大谷 駿介

この度は、未来基金のご支援により、弊会部室に新たに電子ピアノを設置することができました。部員を代表して、心より感謝申し上げます。

従来は、部員数に対してピアノの台数が不足していたため、部室で練習できない部員がいる状況でした。今回ピアノを追加設置したことで、より多くの部員に練習機会を提供できるようになりました。3月には、全国大学生ピアノ選手権にて入賞者の輩出を果たしました。

現在部室にある電子ピアノは、いずれも未来基金により購入できたものです。

ピアノの会の発展にご支援を賜り、部員一同心より感謝しております。引き続き、日々の練習だけでなく、演奏活動を通じた地域貢献にも力を入れて活動してまいります。改めて、この度はご支援をいただき、ありがとうございました。

外国人留学生の受入れ及び本学学生の海外派遣に係る経済的支援事業

海外フィールドスタディS「生物資源と環境」プログラム

高﨑 美桜　工学研究科生物工学専攻修士2年

この度は昨夏に行われたタイでの研究留学プログラム「海外フィールドスタディS」に助成金をいただきありがとうございました。

私はカセサート大学で、運河などの環境サンプルからバクテリオファージを同定する研究に取り組みました。英語力を高めるために、小さな疑問でも現地の教授や学生に積極的に質問した結果、議論を深められ1か月で研究生活を残せた上に、質問することに対する抵抗が無くなり、帰国後の研究の取り組み方にも変化をもたらせました。さらに、タイといういたるところに異文化があふれる国で1か月生活したことは刺激的で価値観を広げられたほか、タイ語で“気にしない”という意味の“マイペンライ”の思考のもと、違いを受け入れる柔軟性を養いました。

今回の留学で得た知見と視野を活かし、今後の研究活動や人生においても新たなことに挑戦し続け、グローバル規模の視点をもって物事を考えたいです。

シエナ外国人大学夏季語学研修プログラム

山口 晃平　外国語学部外国語学科3年

私は、2023年9月に「シエナ外国人大学夏季語学研修プログラム」に参加しました。

イタリア滞在中は、現地の外国人大学に通いながら同じ寮に宿泊し、他の留学生との交流を楽しみました。大学ではレベルに応じた2つのクラスに分かれ、イタリア語を学びました。最初は先生のイタリア語を聞き取るのに苦戦していましたが、1ヶ月もすると慣れ、国内の旅行やイタリア人との会話を楽しみました。最も印象に残っているのは、現地の人との交流で、今まで学んだイタリア語を使えることに感動すると同時に、もっとイタリアに関することを学びたいと感じました。また、最近は自動翻訳などの技術も進んでいますが、やはり自分の言葉でコミュニケーションを取ることが大切だなと実感しました。

最後になりますが、支援をしてくださった全ての方々に多大なる感謝を申し上げます。ありがとうございました。

特定基金の活用

PICK UP! 1 学部・研究科等のプロジェクト

3部局より、ご支援のお礼と活動報告を申し上げます。

基礎工学部・基礎工学研究科教育研究事業

基礎工学部長・
基礎工学研究科長
和田 成生

世界に羽ばたけ! エンジニアリング・サイエンティスト

モノづくりの工学と原理原則の学理を追求する理学。工学と理学の間には、まだまだ大きな開きがあります。しかし、現代社会において求められる人材には両方の素養が必要です。基礎工学部・基礎工学研究科では、「科学と技術の融合による科学技術の根本的な開発、それによる人類の真の文化の創造」を理念に掲げ、理学と工学の双方の視点を備えたエンジニアリング・サイエンティストの育成を60年以上にわたって実践してきました。

ご支援いただいた特定基金は、講義室の整備や学生の就学サポート、若手研究者の育成、国際交流など、本学部・研究科における教育研究活動に活用させていただいています。特に、近年ではグローバル化が進んでおり、海外の大学と交流協定を締結し、交換留学や国際共同研究、ダブルディグリープログラムの推進に力を入れています。

今後も科学技術を牽引し、社会の発展に貢献するユニークな人材育成に努めてまいりますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

基礎工学コンソーシアムでの学生留学派遣

語学研修プログラム支援

情報活用型人材育成のための共用設備整備

青雲教育研究事業（法学部・法学研究科・高等司法研究科教育研究事業）

※R6.5～「青雲教育研究事業（法高青雲会周年事業）」に名称変更

法学部長・法学研究科長
武田 邦宣

高等司法研究科長
松本 和彦

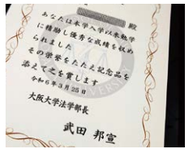
法学部70周年・高等司法研究科20周年事業に向けて

本事業は法学部・法学研究科・高等司法研究科で学ぶ学生への支援のため2011年に設置されました。これまで本事業の趣旨にご賛同くださり、ご支援いただきました皆さまへ、厚く御礼申し上げます。皆さまのご厚意により、充実した学生生活を送るための修学支援や環境整備のみならず、成績優秀者への優秀賞の授与や懸賞論文の実施、外部講師を招いての特別講演会等、優秀な人材の育成のため、大いに活用させていただいております。

法学部・法学研究科は、令和5年に70周年を、法科大学院として平成16年に設置された高等司法研究科は、令和6年に20周年を迎えました。その節目として周年事業を実施し、さらなる学生支援の充実、よりよい教育研究環境を整備いたします。

本事業により、一人でも多くのよき法曹や人材を大阪大学から輩出できる取組を一層強化してまいりますので、引き続き皆さま方の温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

院生コピー室　照明LED化



優秀者表彰状（サンプル）

大阪大学医学部附属病院再開発基金

医学部附属病院長
野々村 祝夫

Futurability　待ち遠しくなる未来へ。

大阪大学医学部附属病院は、1993年に大阪市から全面移転してから30年以上が経過しました。この間、日本は超高齢社会に突入し、大学病院には超急性期病院としての役割や臨床研究をリードする病院としての役割が強く求められるようになり、診療スペースや当直室などのスペースもどんどん手狭になり、病院がより高度な機能を持つために再開発事業によって、生まれ変わろうとしています。

現在建設中の統合診療棟は2025年5月に運用を開始し、地上8階、地下2階の建物に外来機能や手術室などが入ります。その後、現在の外来・中央診療棟を解体して、跡地に病棟を建設する計画です。

超高齢社会では、複数の病気を抱えて診療科をまたがって受診する患者さんが多くなり、病院としての総合力が問われます。すべての診療科がそろい、高度な医療を提供する大学病院の重要性は非常に増しています。

先般、診療機能・未来への医学の研究開発機能のさらなる充実を図るため、大阪大学未来基金に「大阪大学医学部附属病院再開発基金」を立ち上げました。既に、多くの皆さまより多大なるご厚情を賜り、深く御礼申し上げます。

再開発のコンセプトは、“Futurability　待ち遠しくなる未来へ。”です。何卒、本事業の趣旨にご賛同いただき、引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

統合診療棟マスタープラン

1. 患者中心、地域貢献（患者支援、地域連携機能の充実）
2. 手術室、低侵襲治療施設の機能強化（高度急性期、超高齢社会への対応）
3. 教育・研究、診療拠点機能（臨床研究中核、災害拠点としての機能）
4. センター化（横断化医療、個別化、専門化医療の提供）

スケジュール

2025年1月	医学部附属病院	統合診療棟　竣工
2025年5月	医学部附属病院	統合診療棟　開院
2025年以降	医学部附属病院	新病棟順次着工予定

2025年5月 完成後正面外観イメージ

2024年5月 現在の様子

応援の声

元開業医
中島 篤巳 様

適塾、これが私の大阪大学医学部選択の単純な理由でした。その厚い伝統から、臨床研究はもとよりグローバルな地域医療にも確かな軸足を置いた「統合診療棟」が誕生する。患者さん中心を理念だけで終わらせないという強い意思が感じれられ、とても嬉しいです。また「臨床研究中核病院」が「AIホスピタル」の先鞭を打ち、医療環境を大きく押し上げる。その阪大発AIネットワークで、私のような遠隔地でも身近に先端医療を享受できる日が近いと確信しています。先端医療享受は、田舎で守備範囲の広い医師にやる気を起こさせます。私は高齢で医師を卒業しましたが、まだ応援はできます。来春の第一報を楽しみにしております。

PICK UP! 2 修学支援・研究等支援のプロジェクト

大阪大学 修学支援事業基金

意欲にあふれる優れた学生が、未来を切り拓く「知の探究者」として輝けるように、修学が困難な学生への皆さまからの温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

2023年度から、経済的に困窮した学部学生への入学料免除制度を、2024年度からは、博士（後期）課程への入学料免除対象者も拡大しました。

プロジェクト実施者の声

経済的理由により入学料の納入が困難な本学の入学生に対し多大なご支援を賜り、改めまして厚く感謝申し上げます。従来国から本学へ配分される入学料免除予算状況は大変厳しく、本学が規定する免除許可相当の基準を満たす申請者のうち、予算の都合上全額免除及び半額免除を許可することができない者が多くいる状況でありました。

この制度の導入により、例年よりも約1割の免除許可者増が可能となりました。本ご支援による入学料免除の拡充は、経済的負担により進学を躊躇する優秀な博士（後期）課程学生の背中を力強く押すものであり、また、研究型総合大学である本学が取り組んでいる博士人材育成の向上に資するものとなっています。

大阪大学 研究等支援事業基金

不安定な雇用状態にある研究者等が自立した研究者として行う研究活動や成果発表、異分野の研究者との交流等のため皆さまからの温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

2024年度から、この基金を活用して次世代グローバルリーダー海外派遣プログラムが始まりました。

プロジェクト実施者の声

本プログラムは、本学における博士研究員や博士課程といった早期の段階にある研究者に海外派遣の機会を提供し、国際的なネットワークの中で研究経験を積ませることで、世界の学術研究を先導し得る研究者を育成することを目的とします。2024年度は、次世代の学術研究をリードし得る幅広い分野からの5名の本学学生が採択され、夏以降に海外に派遣される予定です。皆さまのご期待に応えられるような大きなプログラムへと発展させることを目指し、引き続き、採択者へのサポートなどに注力してまいります。

税制上の優遇措置

「大阪大学修学支援事業基金」及び「大阪大学研究等支援事業基金」への個人の方からのご寄付については、他の未来基金同様の「所得控除」に加えて、「税額控除」も適用対象となります。確定申告の際、「所得控除」、「税額控除」のいずれかを選択いただけます。

■所得控除

ご寄付いただいた方々の所得に応じた税率を寄付金額に乗じ、控除額を決定します。所得税率が高い方に効果が大きい制度です。

（所得金額（年収） － 諸控除（扶養控除等）（寄付金-2,000円））× 税率 5～45% ＝ 所得税額 寄付金控除

所得に応じた税率を乗じて控除額を決定

■税額控除

ご寄付いただいた方々の所得税率に関係なく所得税率から直接寄付金額の一定割合を控除します。小口のご寄付にも従来の所得控除に比べ、減税効果が大きい制度です。

（所得金額（年収） － 諸控除（扶養控除等））× 税率 5～45% ＝ 所得税額（寄付金-2,000円）×40%

※上記はあくまで目安であり、実際の控除額等減税効果は各収入の種別によっても異なります。
※税額控除をご利用される方は確定申告の際、大阪大学が発行する「寄付金領収証書」「税額控除に係る証明書（写）」を所轄税務署にご提出いただきます。

PICK UP! 3 課外活動等のプロジェクト

2団体の学生大学生活サポート事業よりご支援のお礼と活動報告を申し上げます。

体育会硬式庭球部支援事業

大阪大学体育会硬式庭球部です。OB、OGの皆さまを始め、保護者の皆さま、弊部ご関係者の皆さま、平素より大阪大学未来基金にてご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

皆さまからいただきました支援金は、主に練習環境の整備のために使わせていただいております。

素晴らしい練習環境のもと、昨年は約10年振りとなる個人戦での本戦出場を達成しました。本年も七帝戦優勝、リーグ戦昇格、本戦出場に向けて「パワーのあるチーム」のスローガンのもと一生懸命練習に励む所存です。

最後になりますが、皆さまに応援し続けていただけるような魅力あるチームに向かって精進してまいりますので、今後ともご支援、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

体育会硬式庭球部 部員一同

活動の様子

医学部ボート部支援事業

大阪大学医学部ボート部です。平素より多大なるご支援をいただきありがとうございます。昨年、皆さまからの支援金を使用し対校艇をアップグレード、エルゴメーターを2台購入し日々の練習に使用しております。こうした強化により、先の5月に開催されました朝日レガッタにおいて全国の大学も多く出場する中、男子舵手付きフォアで3位、女子舵手付きクォドルプルで1位を果たしました。7月には基金を使用して購入した新艇が納品されました。

8月開催の西医体ボート部門・メディカルレガッタにおいて、花形種目である一般男子舵手付きフォア、一般女子舵手付きクォドルプル部門において優勝、新人男子舵手付きフォア、新人女子舵手付きクォドルプルでの連覇を目指し練習しております。皆さまからのご支援により活動を続けることができております。心より感謝を申し上げます。

一方、日頃の活動に加え艇庫使用料や各種協会登録費により部の財政は大変厳しく、現役部員のみではその一部を賄えない状況にあります。つきましては、大変勝手なお願いではございますが、皆様からのご寄付をお願いしたく存じます。事情をご理解の上一助をくださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

医学部ボート部 部員一同

活動の様子

応援の声

開業医
伊澤 光 様

未来基金は、身近なテーマに限定して寄付できるのが大きな特徴と思います。

今回、自分が在籍し、妻と出会うきっかけとなった思い出深い医学部ボート部に寄付をいたしました。後輩たちが新しい艇を手に入れて喜んでいる様子が目に浮かびます。実りの多いキャンパスライフを謳歌できるよう願います。

クラウドファンディング

大阪大学クラウドファンディング
https://readyfor.jp/lp/osaka_univ/

2023年度 達成率 100% ご支援ありがとうございました!

2018年よりインターネットを通じ、一般の支援者の皆さまから寄付金を募るクラウドファンディングを実施しております。皆さまからの力強いご支援をいただき、これまで32件のプロジェクトが成立し、研究教育活動・社会貢献活動に累計10,000人を超える方々から2億8千万円以上のご支援が集まりました(2024年3月末時点)。今後も本学の持つ知を広く社会に還元し、イノベーションを推し進め、世界に羽ばたく人材を輩出するためのさまざまなプロジェクトを実現すべく、皆さまからの力強いご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

心房細動患者さんひとりひとりに合う、抗凝固薬の内服方法を研究したい

寄付総額:6,853,000円　寄付者:175人　募集終了日:2023年10月31日

医学系研究科医学専攻
坂田 泰史 教授

心房細動患者さんは、発作頻度にかかわらず、血流のうっ滞による血栓形成から引き起こされる脳梗塞を予防するため継続的な抗凝固薬の内服を必要とします。発作頻度の少ない人にとっては必要以上に出血リスクを抱えている可能性が考えられます。そこで私たちは持続的に脈拍をモニタリングできるApple Watchを用いて、心房細動患者さん個々の発作状況に応じた抗凝固薬の服用方法を検討するために、クラウドファンディングを行いました。多くの方々からご支援をいただき、研究を進めることができました。2024年4月に研究は登録終了し、現在は観察期間中であり、2025年中には結果を世の中に発信できる見込みです。ご支援いただいた方々に、心から感謝申し上げます。患者さんお一人おひとりに合う服薬の実現に向けて今後とも頑張っていきたいと思います。

応援の声

勤務医
谷 明博 様

欧米では以前からクラウドファンディングが発展しており、イノベーティブな研究が盛んに行われ、その成果もみられています。しかし、日本は優秀な研究者がその能力を発揮する環境が整わず、その点では遅れていました。特に若手が重要な研究を行おうとしても、企業からの資金が期待できない場合や予算の優先順位が低い場合が多く、壁にぶつかることが多いと聞いていました。

そんな時、坂田教授を通じてクラウドファンディングが大阪大学で活用されていることを知りました。かねてから大阪大学の研究の支援をしたいと思っていましたので、このような機会を与えてくださったことに感謝せずにおれません。支援者からの応援コメントが直接届くことや、思いがけない人からの支援をいただくことがあるのもクラウドファンディングの魅力です。成果は焦る必要はありません。失敗も成長の糧です。たとえネガティブな結果になっても、真実は何かという視点に立った研究を行っていただきたいと思います。

日本の近代化と感染症対策の原点、適塾の建物を後世に守り伝えたい!

寄付総額:10,958,000円　寄付者:237人　募集終了日:2023年11月30日

適塾記念センター
松永 和浩 准教授

幕末の大坂で蘭学者・緒方洪庵が開き、福沢諭吉等の日本の近代化を牽引する人材を輩出した適塾は、現存唯一の蘭学塾遺構として重要文化財に指定されています。この貴重な市民共通の文化財を預かる大阪大学は近年、防災体制の強化に努めています。その一環として、建物を三次元計測して現状を記録し、万が一の事態に備えることとしました。おかげさまで1千万円超のご支援を賜り、2024年4月に適塾の内観・外観の撮影とスキャンを実施できました。今後は、点群データとフォトグラメトリによる3Dモデルを作成して適塾の維持・管理に活用するほか、ウェブ上での展開を計画しています。また周辺の個人・団体を巻き込んだ地域防災の構築を目指しています。

応援の声

大阪大学
故 芝 哲夫 名誉教授

私達は1971～1988に大阪大学理学部教授(天然有機化学講座)を務められた芝哲夫先生(1924～2010)の研究室の同窓会である「離合會」のメンバーです。芝先生は日本の化学史、特に適塾に関する研究をライフワークとされ、「適塾の謎」等の著書を残されました。2024年は先生の生誕100年にあたることから、同窓会として適塾の研究と保存に関わる事業に対して寄付させていただくことにしました。些少ですがお役立ていただければ幸いです。(2024年度幹事代表:山本晃嗣)

人生の集大成としての「遺贈」

～お一人おひとりの想いを未来に届けます～

「自分の生きた証を残したい」「人生の集大成としての社会貢献を実現したい」こうした大切な想いを本学に託してくださるご相談が、近年非常に増えています。

本学はこれまで卓抜した研究成果と社会で活躍する多数の人材を輩出してまいりました。

さらに今後のビジョンとして、多様なステークホルダーとの共創による「生きがいを育む社会の創造」を掲げ、さまざまな社会課題解決に一層貢献していく所存です。こうした我々の取組や挑戦を通じて、共により良い未来社会を実現していくことができれば幸いです。

遺贈寄付に関する実態調査

調査概要

【調査実施期間】2023年10月31日～2023年11月6日【調査方法】Web調査
【調査地域】全国　【調査対象条件】20代～70代男女　【サンプル数】1,000サンプル

	20代	30代	40代	50代	60代	70代
男性	83	83	83	83	84	84
女性	83	83	83	83	84	84

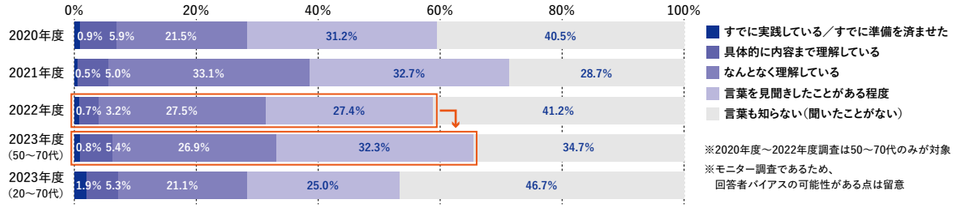
出典:一般社団法人日本承継寄付協会「遺贈寄付に関する実態調査2023」

遺贈寄付の認知度推移

遺贈寄付の認知度は、50～70代に限定すると65.3%であり、前年度対比で上昇傾向

・50～70代に限定して2022年度調査結果と比較すると、認知度は+6.6%と上昇。

Q.あなたは遺贈寄付(亡くなった後のご自身の財産(の全部または一部)が寄付できる)のことを知っていましたか。(お答えは1つ)　回答者:全員(単一回答)

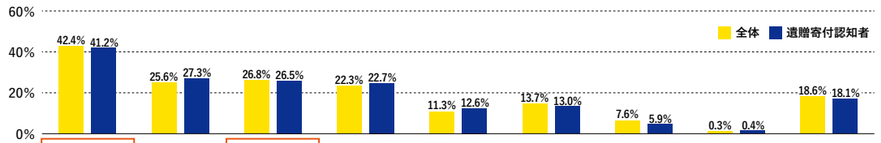


※2020年度～2022年度調査は50～70代のみが対象
※モニター調査であるため、回答者バイアスの可能性がある点は留意

遺贈寄付の実施意向に係るペインポイント

遺贈寄付の実施意向に係るペインポイントは、遺贈寄付の認知度の有無に関わらず「寄付の使途が不明瞭」「遺贈寄付のやり方が分からない」が多数を占める

Q.遺贈寄付(ご自身が残す財産の一部を寄付をする)を考えたことがある方にお伺いします。あなたが遺贈寄付について考えたとき「断念した理由」や「不安に思うこと」もしくは「まだ準備をしていない」理由は何ですか。お気持ちにあてはまるものをすべてお選びください。(お答えはいくつでも)　回答者:40代以上の遺贈寄付利用意向者(複数回答)



			寄付したお金がどのように使われるか不明瞭	誰に、どこに相談したら良いか分からない	遺贈寄付のやり方が分からない	まだ準備をする年齢ではないので、手続きをしていない	遺言書を書くのが面倒	寄付したい先が見つからない	家族に説明するのが面倒	その他	特に不安に感じることはない
全体		328	42.4	25.6	26.8	22.3	11.3	13.7	7.6	0.3	18.6
遺贈寄付認知度	認知者	238	41.2	27.3	26.5	22.7	12.6	13.0	5.9	0.4	18.1
	非認知者	90	45.6	21.1	27.8	21.1	7.8	15.6	12.2	—	20.0

『すでに実施している／すでに準備を済ませた』『具体的に内容まで理解している』層までは計6.2%と、遺贈寄付の具体的な理解は未だ広まっていない状況です。本学では、より多くの方々に遺贈寄付について正しく知っていただき、ご自身にあった社会貢献の選択肢の一つに加えていただくことが重要であると考えております。

また、「遺贈寄付のやり方が分からない」等 さまざまなご不安を解消し、安心してご検討いただけるよう日々活動しております。

あなたは、どんな未来社会を実現したいですか。是非、大切な想いをお聞かせください。

お一人おひとりの想いに寄り添い、豊富な実績・経験を持つ担当者がご相談を承ります。
まずはお気軽に、遺贈担当へお問合わせください。

本学への遺贈等の税務

	相続税	所得税
遺言によるご寄付	本学へご寄付いただいた財産は、非課税財産となります。(不当減少の場合には課税)	被相続人の方の準確定申告にて、寄付金控除があります。
相続財産によるご寄付	申告期限内にご寄付を完了され、申告時に寄付金領収書を税務署にご提出されることで非課税となります。(不当減少の場合には課税)	相続人の方の確定申告にて、寄付金控除があります。

未来基金の状況

大阪大学未来基金の受入総額は132億円に

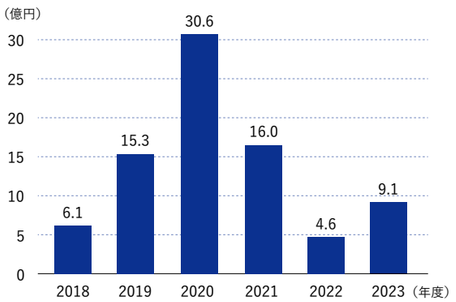
大阪大学未来基金の受入金額は、2024年3月に累計132億円に達しました。温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。皆さまからのご寄付は、本学のさまざまな事業に有効活用させていただいております。

当基金の設置当初（2009年5月）から2024年3月末までの収支状況は、以下のとおりとなっております。基金残高は、約55.1億円となりました。

当基金は、卒業生を始め、地域社会、企業・団体など多くの皆さまのご支援に支えられてまいりました。感謝の気持ちを忘れずに、大阪大学未来基金事業をさらに活発化してまいりたく、今後とも何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理事（共創担当）・副学長　金田 安史

寄付額の推移（年度別）



※ 助成金は除く

収支状況

内訳		累計額（億円）
収入	寄付受入	129.6
	運用益	2.4
	小計	132.0
支出	基金事業への支出	75.7
	活動費	1.2
	小計	76.9
基金残高（2024年3月31日現在）		55.1

※1 助成金は除く　※2 小数点以下第2位を四捨五入　（2009年5月～2024年3月）

ご寄付者への顕彰

大阪大学「ワニ博士」

感謝状の贈呈

2万円以上のご寄付をいただいた皆さまに、総長から感謝状を贈呈いたします。

ご芳名の掲載

未来基金ホームページ内の「芳名録」に掲載いたします。

「大阪大学感謝の集い」にご招待

一定期間内に一定額以上のご寄付をいただいた皆さまを招待いたします。

紳綬褒章

紳綬褒章
https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/privilege/

紳綬褒章は、公益のために私財（個人：500万円以上、団体：1,000万円以上）をご寄付された方などを、国として表彰する栄典の一つで、その栄誉のしるしとして授与されます。

本学は、内閣府賞勲局より認定を受けた紳綬褒章の公益団体です。大阪大学未来基金では、要件を満たした個人及び団体のご寄付者にご意向を確認の上、文部科学省に申請いたします。

大阪大学未来基金におけるご受章の要件（個人）

ご寄付の金額	500万円以上 ※ご寄付の目的・入金日が同一 ※複数回の受章が可能、1,500万円以上で木杯も授与
分納について	あらかじめお申出をいただいた場合に限り、分納も可能
必要書類	・履歴書 ・戸籍抄本 2通
申請期限	大阪大学未来基金へのご入金日から起算して3ヶ月以内 ※分納の場合は、最終のご入金日から起算して3ヶ月以内
ご受章の決定	本学から文部科学省への申請後、 内閣府での審査（約1年～1年半程度）を経て決定

紳綬褒章

桐紋付きの木杯

飾版（銀）

飾版（金）

出典：内閣府ホームページ（https://www8.cao.go.jp/shokun/shurui-juyotaisho-hosho.html）を加工して作成

2回以上のご受章・高額（1,500万円以上）のご寄付について

●個人で2回以上受章された場合、その都度、飾版（銀）が授与されます。この飾版（銀）が5個以上に達したときは、5個ごとに金色の飾版と引き替えて授与されます。
●ご寄付額が1,500万円以上の場合は、併せて桐紋付きの木杯が授与されます。
※団体での申請については、大阪大学未来基金事務局までお問合わせください。

紳綬褒章伝達式

紳綬褒章が授与されましたら、伝達式を開催し、西尾総長より伝達物を受章者にお渡ししております。

銘板について

累計50万円以上のご寄付をいただいた方には、ご意向を確認の上、ご芳名を大阪大学中之島センター及び大阪大学会館に掲示させていただきます。

大阪大学中之島センターの銘板

大阪大学中之島センター改修完了に伴い、2023年4月より同センターでのご芳名の掲示を再開いたしました。約3ヶ月に1回の頻度で更新しており、1階ロビーのオープンスペースにて掲載しております。皆さま、是非お立ち寄りください。

大阪大学会館の銘板

豊中キャンパス大阪大学会館階段踊り場に銘板を掲示しております。同会館の銘板につきましては、年度ごとの更新となります。